

V. 特記事項

1. カトリック大学としての看護大学—ローマ教皇庁との連携

キリスト教は世界3大宗教の1つと言われ、そのうちカトリックはローマ教皇を中心として全世界に15億人の信徒を持つ。しかし、日本における信徒数は人口の3%強に過ぎず、カトリック大学もわずか19校で、そのうち6校のみが看護学部を持つ。令和4(2022)年、11月29日にマリア病院と共にローマ教皇庁立バンビーノジェズ小児病院との協働事業提携を締結した。聖マリアグループの周年記念式典にあたっては教皇庁より、聖マリアグループ代表者各々に対し、感謝状の贈呈とPROECCLLESIA POTIFICE勲章が授与された。

聖マリアグループはキリシタンの殉教者を先祖に持つ一家族により創立され、その後4世代にわたり、多くの地域の協力者と共に保健医療福祉および教育の分野における、長年の地域・国際(特に途上国)への実践を通じて福音宣教を実践して来たことは世界にもまれにみる功績であるとのことで、教皇庁及びカトリック教会への多大なる貢献として表彰されたものである。キリスト教の人格の尊厳を最高原理とする生命倫理は国際法の基盤をなすものでもあるため、本学は教皇庁との連携を強固にし、さらに高等教育機関としての看護教育の質の維持に努め、グローバル社会の平和の構築に努めたい。

2. ロイ適応看護モデルとRoy Academia Nursology Research Center の活動

ロイ適応看護モデルは、短期大学開設当初より現在に至るまで、約40年間に渡り本学の教育に取り入れられている。特に、看護学部開学後は4年間を通して段階的に深まるリベラル・アーツ教育の充実が図られ、モデルの哲学的前提・科学的前提・文化的前提の理解につながった。さらに、令和4(2022)年より開講した新カリキュラムにおいては、カリキュラムの中核にロイ適応看護モデルを据え、1年次から4年次まで段階的にモデルの理解や看護実践が深まるように教育が再構築された。また、最善・最新の看護を提供するために、ロイ適応看護モデルを持続的に研究する場として平成30(2018)年にRoy Academia Nursology Research Center (RANRC)が設立された。RANRCは、人々の苦しみを理解するための新たな看護知識を開発するために研究活動を促進し、ロイ適応看護モデルのさらなる発展に寄与することを目指している。メンバーは、Roy Adaptation Association International ConferenceにおけるWorkshopの運営、研究成果報告・受賞、論文執筆、病院看護師に対する研修会の企画運営、年1回のNursology Letterの発刊に取り組んでいる。近年では、有志の学生がRANRC-Student groupを構築し、活動に参画している。

3. 臨床と大学の協働・連帯により学生の看護実践能力を育成する教育方法の試み

本学の臨床教育の殆どは建学の精神を共有する聖マリア病院で行われることから、聖マリア病院の看護職員の中で大学院を修了している者に対して臨床看護教授・准教授・講師の称号付与に関する規程を設け付与している。また、実習教育担当者に対しては、継続教育の一環として実習前の学生の準備状況を把握することを目的に、実習前に開講される教科目「スキルラボ臨床レベル3;OSCE」への参加を実施している。さらに、平成29(2017)年度からは、臨床と大学の協働による最適な臨床教育/学習環境と学修モデルの構築を目指して、聖マリア病院、聖マリアヘルスケアセンターの看護部長らと協働し、教育モデル病棟を設置した。教育モデル病棟で実習した学生は、「病棟に受け入れられている」「看護学への興味が高まった」と学修環境を高く評価している。